



2023年9月
第741号

日本基督教団 平塚教会
発行人 平塚教会
編集人 中山洋司
〒254-0045 平塚市見附町6-18
電話 〇四六三(32)八八三一



健康のために礼拝を休む

平塚教会牧師 北川一明

主が望まれるのは主を畏れる人
主の慈しみを待ち望む人

(詩一四七・11)

八月は異様な暑さが続きました。みなさん、健康にはくれぐれも留意ください。

先月は平和月間だったので、祈禱会では「戦争は、始まってからでは遅い」という話題が出ました。始まってからでは遅い、始まらないようにしなければ、人類は滅びると私たちは話し合いました。それは環境問題も同じでしょう。

地球規模の環境破壊については一九七〇年代から既に報告されてきました。一九九〇年代からは盛んに議論されましたが、人間たちは本気では対処しませんでした。そのため二〇二三年夏、自然はいよいよ我慢が出来なくなつて、人間に対して一斉の武力攻撃を始めた…という

印象を受けました。

戦争については… ロシアのウクライナ侵攻は、単なる二国間の紛争ではありません。日本では「平和を愛し人権を守る民主国家陣営」と武力で現状変更を試みる強権国家陣営の戦い」と捉えるのが一般的でしょうか。仮にそうだとしたら、民主陣営は既に負けています。自らの理念に反して武力で現状を打開しようとしているからです。そもそも「民主国家対強権国家」という「陣営」を作った時点で、既に平和主義者の敗北は始まっています。

即時停戦を願うべきでしょうか。それは一部の人たちの権利を奪ったままにして不当に苦しめ続けることを承知の上で、無理矢理に戦いをやめるといふことです。それが今からできる最善の策である気がします。

ただし、それでは両者ともに納得できず、悲しみと怒り、憎しみは残ります。当事者たちは国際社会に対する希望と信頼を失い、今後の争いの火種になります。かといって、両者が納得する解決方法は、もはやありません。それが戦争を始めてしまった結果です。

戦争にしても環境保護にしても、個人の努力では解決

目次

健康のために礼拝を休む

牧師 北川一明 …1

へいわって どんなことでしょう

比企能哉 …3

教会ニュース

・手作りの会が始まりました …3

・教会学校夏休みイベント …4

編集後祈

…4

しません。平塚教会の周辺はマンションが林立しています。みんながクーラーをつけてるので、室外機が外気温をさらに上げています。みんながエネルギーを使ってわざわざ地球環境を壊している印象です。そうかといって、誰か一人がクーラーを我慢して熱中症で搬送されたら、もつと余計にエネルギーを使うことになります。緊急車両の出勤や病院での対応は、家庭のクーラー稼働よりも高コストです。

戦争にせよ環境破壊にせよ、個人が一人真面目に取り組んでも解決しない問題です。そうした問題に対してキリスト教は、あるいは宗教は何かできるのでしようか。宗教による強権政治を行えば、これらの問題を多少は改善できるかもしれません。世界を見れば、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教などでは政治勢力を形成しているところがあります。

ただ、こうした戦争防止や環境保護の考え方は、自分たち人間が生き残るための方策です。特に宗教が関係あるわけではありません。人間が人間の都合で考え出したものです。宗教も人間社会で生き残るためには人間社会に貢献すべきでしょう。しかし宗教が担っている本来の役割は、それとは

別です。

本来の役割は、個人がいかに生き、環境破壊で、または戦争で死ぬことになって永遠の命を望み見て、死ぬ瞬間まで誇りをもって生きることが出来るようにすることです。世界の大半の人間が正しく生きれば、結果として人間社会は良くなります。

そうした宗教の本質について、礼拝後に「健康に留意してください」とお話ししながら考えました。

「猛暑の折には、ご高齢のかたなど体調を考えて礼拝を休むことも選択肢にしてください」とお願いしました。礼拝を休んで肉体の健康が守られても、魂の健康が損なわれては困ります。そのことを心に留めつつ、ご家庭で神の御前に出ていただきました。

戦時下「**体を殺しても、その後、それ以上何もできない者ども**(ルカ二・4)」を恐れず礼拝を守って官憲に殺されたクリスチャンもありました。私たちの「**髪の毛までも一本残らず**(同7)」数えてくださった神に感謝していれば、命がけても礼拝に出たいと願うのが健全な信仰です。神に感謝しつつ、しかし神の与えてく

ださった肉体の健康を守るために「死んでも出たい礼拝を我慢する」となったら信仰は確かです。

もつとも、これは理想であって、理想通りにいかない私たちを神は赦しておられます。それでも「暑い時に礼拝を休むのは当たり前だ」と考えては、暑さのみならず他の自分の都合が礼拝より優先されることになります。それでは礼拝は本人の暇つぶしになり魂の健康が損なわれることは覚えておきたいです。

全ての人間が「神は私の命よりも大切」と御前にぬかずくようになれば、結果として人間社会は良くなります。「私の命」も結果として輝きます。

∴そう自信をもって言えるはずでした。しかし一八世紀以来の産業革命と、二〇世紀以来のIT革命で、個人が正しく生きてももう間に合いそうもなくなってきました。私たちの人格の陶冶涵養よりも、世界の崩壊が先かもしれません。

間に合わなければこそ、体を殺してもそれ以上何もできない諸悪を恐れず、神を畏れ敬って魂の平安を守るよう努めるのが本来の宗教信仰です。

へいわって どんなことでしょう？

比企能哉



「へいわって どんなこと？」

作：浜田桂子

「せんそうをしない。」
「ばくだんなんか おとさない。」
「いえやまちを はかいしない。」
「だって、だいすきな ひとに」
「いつも そばにいてほしいから。」
「おなががすいたら」
「だれでもほんがたべられる。」
「ともだちと いっしょに」
「べんきょうだってできる。」
「それから きつとね、」
「へいわって こんなこと。」
「みんなのまえで だいすきな うたがうたえる。」
「いやなことは、いやだって、」
「ひとりでも いけんが出来る。」
「わるいことをしてしまったときは ごめんなさいって あやまる。」
「どんなかみさまを しんじても かみさまを しんじなくても、 だれかに、おこられたりしない。」
「おもいっきり あそべる。」

「あさまで くっすり ねむれる。」
「いのちは ひどりにひどつ、」
「たうたひとつのおもたいのち。」
「だから せつたいに、ごろしたら いけない。 ころされたら いけない。」
「ぶきなんが いらない。」
「さあ、みんなで おまつりのじゅんびだよ。」
「たのしみにしていた ひがやってきた。 パレードのしゅつぱー！」
「へいわって ほくがうまれて よかつたっていうこと。」
「きみがうまれて よかつたっていうこと。」
「そしてね、きみとほくは ともだち」なれるっていうこと。」

○ ○ ○

この絵本は、日本・中国・韓国の絵本作家が、協力して、同じ想いで作成したとのこと。

1人の立ち位置、1人の声が大事とのこと。

平和を正面から受け止められるもの、自分のこととして受け止められるものであ

ることです。

日常の平和の姿から、身近なところから平和を考えられる絵本とのこと。

共感からの平和構築をあきらめてはいけないとのこと。心と心は、通じ合えるとのこと。

現在の日本は、戦争をする国になったとも言われています。ですが、今なら、「戦争をしません。」と言えます。

「へいわって にちようびに さんびかが うたえるっていうこと。」

教会がすすんで、未来に向かって平和の道を歩んでいきましょう。

教会ニュース

◎手作りの会が始まりました

8月6日 礼拝後の一階談話室から和やかな会話に交じって楽しそうな笑い声が聞こえてきました。『もしかして手作りの会かな?』と思い訪れました。

部屋では、8名程の方がテーブルに置かれた素材を囲み、談笑しながら手を盛んに動かしています。「手作りの会が始まったのですか?」の問いに、「そうです。先

月話し合いをして今日から始めました。」とのこと。本日はその第一回目となりました。

今年度の活動計画は、

〔活動日〕第一週日曜日、礼拝後

〔場所〕一階談話室

〔作る物〕クリスマス用小きな製品

皆さん「愛情たっぷりに作りますよ」とおっしゃっていました。今年のクリスマスが楽しみです。

関心のある方はどうぞご参加ください。男性も初心者も大歓迎です。

◎教会学校夏休みイベント

プログラム

- 一部 買い出し
- 二部 スイカ割り
- 三部 バーベキュウ
- 四部 花火
- 五部 祈禱会

台風7号の雨上がり、雲の間合間より青空が見え、心地よい風の吹く園庭で、8月16日教会学校夏休みイベントが行われました。

参加者皆さんで食料品の買い出しと準備からプログラムが始まりました。

第二部はすいか割り。目隠しして、クルリと三度回り、10 m程先にあるスイカに



向かいます。「右、右…左。まっすぐ…もうちょっと。いいよ。それー」と大声援。

10回程トライしてもなかなか割れません。とうとうスイカの手前から挑戦することにしました。

バーベキュウ担当は李三悦兄、プロ級の火おこしと手さばきで、トウモロコシ・牛肉・牛タン・エビ・タマネギ・豚肉…が次々と焼かれ、皆さんのお腹を満たしていきま。隣では焼きそばができました。食の極めは最後に出てきた焼きマシユマロ。皆さんその美味しさに虜になったようです。

夜の教会は、十字架の塔が光で浮かびとても幻想的です。その下での花火。そして牧師先生が聖書のお話と祈りを捧げ夏休みイベントは終了しました。

「友人であるあなたがたに言うておく。体を殺しても、その後、それ以上何もできない者を恐れてはならない。誰を恐れるべきか、教えよう。それは、殺した後で、地獄に投げ込む権威を持つている方だ。そうだ、言うておくが、この方を恐れなさい。ルカ12・4・5」

編集後祈

編集の最中に78回目の終戦記念日を迎えました。比企能哉兄の原稿を読みながら、戦中生まれの私は、戦後の幼き頃を思い出しました。(編集子)